

## 日英教育学会第31回大会プログラム

大会準備委員長 高妻紳二郎（福岡大学）

kozuma@fukuoka-u.ac.jp

①開催日:2022年8月29日(月)、30日(火)

場所：大会会場＝福岡大学附属図書館多目的ホール（下記参照）

運営委員会・シンポ打ち合わせ会場＝福岡大学附属図書館6階ゼミ室

②大会参加費

対面参加者：3,000円（当日徴収いたします）

オンライン参加者：3,000円（学生会員は無料）

\* オンライン参加の方には Peatix というオンラインシステムを利用させていただきます。

大会準備委員会で大会用の Web サイトを立ち上げ、チケットをご用意しております。

チケットを購入すると、大会参加の ZOOM アクセス情報を入手できます。

以下のリンクにアクセスし、画面の指示にしたがって購入手続きをお願いします。

なお、パスワードは別途学会事務局からお知らせいたします。

第31回日英教育学会（@福岡大学）

<https://31st-jp-uk-fukuokaforum.peatix.com/>

\* 学生会員は対面、オンライン問わず無料で参加できます。

参加ご希望の学生会員は直接、大会準備委員長までメールでお知らせください。

Zoom ミーティング情報を折り返しお知らせいたします。

③ スケジュール

第1日：8月29日（月）

11:00～12:30	運営委員会	図書館6階 大学院ゼミ室
13:00～	受付開始	図書館1階多目的ホール前
13:00～13:40	シンポジウム 打ち合わせ	図書館6階 大学院ゼミ室
14:00～17:20	シンポジウム	図書館1階多目的ホール

【シンポジウム】 8月29日(月) 14:00~17:20

## 「英国教員養成の質保証：複雑化する養成ルートでいかに専門性を保証し得るのか」

周知のように英国の教員養成は school-based に移行する様相を呈しており、人口増の見通しにありながら深刻な教員不足がみられるなど、伝統的な教職プロフェッショナルを育成する軌道とは離れた動向が看取される。近時の政策として普及しているアカデミーには免許資格を保有せずとも教員として登用する例もみられるといい、英国の教員養成、ひいては教師教育全体を今一度見直す必要がある時期を迎えたとも言えよう。くしくもコロナ禍における度重なるロックダウンの影響も甚大であって、授業で活用する通信回線状況格差はもとより学校から家庭への連絡手段の途絶や喫緊の生活保障の必要を含め、家庭や子どもが置かれた教育環境の格差も浮き彫りになった。児童生徒のみならず、教員が置かれた生活状況、勤務状況についても vulnerable な観点から大きな課題として把握されている。そしてなおも英国における感染状況の急激な増縮減が看取され、学校も大きな影響を受け続けている。2020年のロックダウン初期にみられた YouTube 動画で代替可とするような局面からは脱出しつつあるとはいえ、教育内容にとどまらず今後は教師の専門性も再び問われることが予想し得る。

過去の日英教育学会において「英国教師教育・教員養成」をシンポジウムの課題として取り上げたのは、第5回大会（1996年8月、立命館大学）「教師教育の動向と課題」（R.オールドリッチ教授）、第7回大会（1998年9月、早稲田大学）「教師教育の未来」（P.ギルロイ教授）、そして第21回大会（2012年9月、早稲田大学）「日英の教員養成の比較研究」の3回である。直近の2012年の大会では日本では自民党から民主党への政権交代を経た時期での企画であり、日英の教員養成の実態を素材として教員養成期間の延長や研修制度の在り方が活発に議論されている（本学会紀要第17号所収）。以来、10年が過ぎた今日、日本では教職の専門性の議論を超えて教員免許更新制度の「発展的解消」を主な目的とした教育職員免許法が改正され、失効した免許も復活することとなった。さらに「働き方改革」の号令の下で教員の仕事の見直しが急がれ、一方で採用倍率の著しい低下に何とか歯止めをかけようとする微視的な手当てや、特に小学校において全く足りていない教員不足の弥縫策に追われている。

このように重要案件は目白押しではあるが、日本における教員養成改革の多様な政策アイデアにかかる議論を参照しつつも、本シンポジウムでは、英国の教員養成ルートと教員の資質・能力の向上策、養成システムに詳しい会員お二人のご報告をもとに、英国における教員養成に焦点化した議論を展開したい。そして英国での「教員養成の質保証」の特質を描出するとともに、どのように専門性を保証しようとしているのか、現状及び今後の展開に係る情報共有の場としたい。

14 : 00 開始

14 : 10～15 : 20

教員養成の場の多様性と複雑性（仮）

盛藤陽子（東京大学大学院・院生）

15 : 30～16 : 40

教員養成の軌跡と見通し—日英比較の視点—（仮）

高野和子（明治大学）

16 : 50～17 : 20 共同討議

【シンポジストの紹介】

盛藤陽子会員

【略歴】

令和 4 年 3 月東京大学大学院教育学研究科博士課程単位取得満期退学、4 月から東京大学大学院教育学研究科大学院研究生として在籍及び公立高等学校教諭として勤務。

【研究関心】

イギリスの学校主導型教員養成の一つである SCITT(School-centred Initial Teacher Training)のカリキュラムや教育内容とそれらを通じた実習生や教師の学びの様相を質的に分析すること。

【主要な研究業績】

・「イングランドの SCITT(School-centred Initial Teacher Training)における「理論」と「実践」の統合に関する一考察—Gateshead 3-7 SCITT カリキュラムの事例分析から—」『日本教師教育学会年報』第 22 号、pp. 89-100、2013 年。

・「学校における多文化教育に資するイギリスの学校主導型教員養成カリキュラム—SCITT (School-centred Initial Teacher Training) の比較ケース分析を通して—」『比較教育学研究』第 59 号、pp. 69-91、2019 年、等。

高野和子会員

【略歴】

京都大学大学院教育学研究科博士課程退学（研究指導認定）後、関西、首都圏（1989 年度

から)の高等教育機関での専業非常勤講師を経て1996年度から明治大学専任教員。2007年度にロンドン大学教育学院・客員研究員。

【研究関心】

教育学部・学科をもたない大規模私立大学のなかで教職課程の運営と教育に携わりながら、日本とイギリスの“大学と教員養成”をめぐる問題に関心を寄せてきた。

【主要な研究業績】

・“The Significance and Limitations of Area Training Organizations - a Japanese Perspective”, History of Education Researcher, Vol.84, 2009.

・「イギリスにおける教員養成の「質保証」システム－戦後改革からの40年間」『明治大学人文科学研究 所紀要』第77冊,2015年; 「『教職課程コアカリキュラム』と『参照基準(教育学分野)』－教員 養成の質保証にかかわる二つの文書－」『明治大学教職課程年報』第43号,2021年、等。

※非会員の方はあらかじめ大会事務局へお問い合わせをお願いします。

参加手続きについて折り返しお知らせします。

第2日：8月30日(火)

8:50～	受付	上記
9:20～11:20	研究発表	図書館1階多目的ホール
11:30～12:30	総会	”

自由研究発表

①9:20—9:50

英国における早期離学者への施策－4地域の差異に注目して

井上慧真(帝京大学)

②9:50—10:20

英国の初等学校における食育の動向(仮)

石黒万里子(東京成徳大学)

③10:20—10:50

白人労働者階級児童・生徒の教育上のディスアドバンテージ問題への取り組みに関する一考察

清田夏代(実践女子大学)

④10:50—11:20 全体討論

11:30～12:30 総会



# 会場案内図

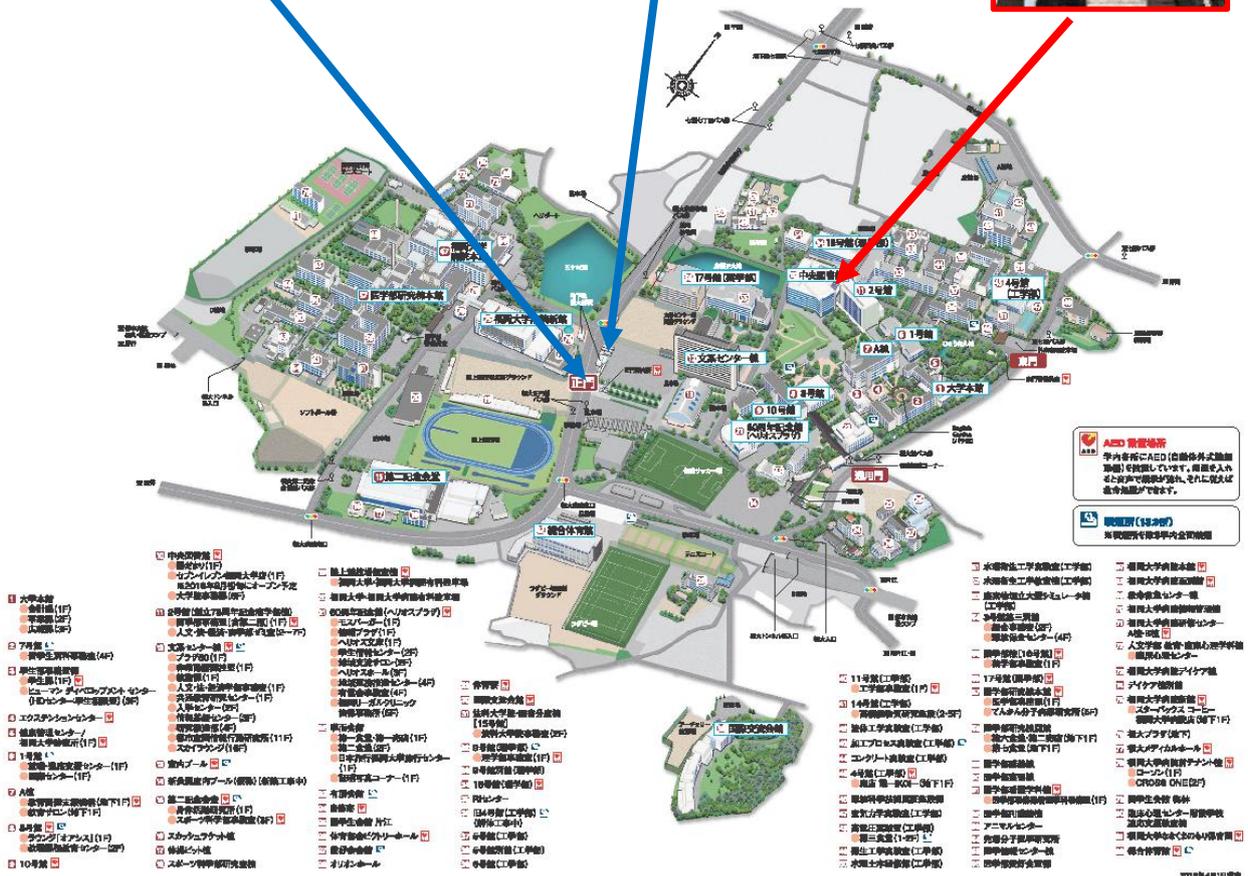
地下鉄七隈線「福大前」駅で降車し、改札を出たら左側にお進みください。  
地上に出るとすぐに大学の正門があります。正門からお入りいただき、左斜め前に見える文系センター棟の1階を通り抜けて中央図書館にお越しください。大会会場は中央図書館1階の「多目的ホール」です。

## 地下鉄福大前駅

### 福大正門



### 大会会場入り口



**AED 設置場所**  
 学内各所にAED(自動体外式除細動器)を設置しています。顔面を人外心と胸部に当てるだけで、それだけで救命が可能です。

**観覧席 (無料)**  
 ※観覧席は各学部の会館に設置されています。